

=市史編さん便り= 【5号】 令和5年5月2日(火) 発行.

*****土佐清水市教育委員会生涯学習課・市史編さん室

◎「市史編さん事業」5～6月の「市史普及啓発活動」

及び会議、資料調査等の計画

5月から6月にかけての「市史普及啓発活動」「会議」「資料調査」の日程を下記に記し、お知らせします。今回は、市史編さん室田村が沖縄ジョン万次郎会の依頼により、中浜万次郎について講話をすることになりました。万次郎の故郷である土佐清水市民の代表として「万次郎の少年時代にスポットを当て」講話を展開したいと考えております。

- 5月6日(土)「ビキニデー高知・幡多フィールドワーク」8:30～11:00
(ビキニデーin高知2023実行委員会主催)
フィールドワーク講師 田村公利
足摺岬(灯台・展望台)→中浜集落(ジョン万生家・納屋・カツオ節販売所)
- 5月9日(火)「高知新聞記事データベース検索調査」8:00～17:00
(市史編さん室・田村、吉本)
- 5月19日(金)「大津郷浦庄屋・上岡家現地踏査」11:00～17:00
(高知大学講師・望月良親氏、高知新聞社・福田仁記者、市史編さん室)
- 5月29日(月)「第1回土佐清水市史編さん・編集合同委員会」14:00～15:00
※15:00～ 業者との校正ゲラ打ち合わせ(該当者のみ)
- 6月3日(土)～5日(月) 沖縄出張(市史編さん室・田村)
6月4日(日)「令和5年度沖縄ジョン万次郎会定期総会勉強会」講師 田村公利

◎足摺岬沖合海上を中心とする興津岬～沖ノ島にかけての

海域は一帯の海域

天保12年(1841)1月7日、足摺岬沖合海上にて万次郎等5人が鳥島に漂着した海難事故が発生したのは足摺岬沖合であった。これについては『漂異紀畧巻之一』に詳しく記されている。万次郎等が宇佐浦から足摺沖合に帆船で移動したのは、土佐湾岸流を利用したものである。また、遭難して鳥島に漂着したのは、黒潮とその大蛇行の影響であった。このように黒潮に流される遭難・漂着は万次郎等以外にも数多くあった。

万次郎等の漂着も含め15事例の漂着が記録に残る。その中には、土佐国東部での岸本長平の遭難事例がある。長平は、天明5年(1785)に赤岡浦の儀七船で遭難して一人鳥島から生還している(『土佐国資料集成・土佐国群書類従第七巻』「巻80下」高知県立図書館、2005年)。このような事例は恐らく記録に残っていないだけで相当数の数があったと思われる。



四国山地を源流とする仁淀川・四万十川等の豊富な栄養(プランクトン)を含んだ水は土佐湾に注がれる。これが土佐湾岸流に乗って足摺沖合海上まで運ばれ、そこで海底に堆積する。足摺岬沖合海上は土佐湾岸流と黒潮が激しくぶつかり、海底に堆積したプランクトンが海中を舞う。これに小魚が群がり、そこにカツオ等の回遊魚が食らいつく。近世、紀州印南浦海民が、足摺半島西南部の伊佐(足摺岬)・松尾・大浜・中浜等に据浦(漁業基地)とし、船団を組みカツオ漁を展開して納屋にカツオを卸し、節加工に勤しんだ。海流と海流が衝突する激しい海域だからこそ、土佐国を代表する好漁場として一帯は発展してきた。

海を通じて、土佐清水市民は、多様な活動を展開してきた。足摺半島東岸から東を見れば、土佐湾に突出し興津岬(四万十町)がうっすらと見える。また、臼碁や大浜から南西方向を見ると沖ノ島(宿毛市)が浮かび上がり、

これを目視することができる。

足摺岬から直線距離で北東の興津岬、南西の沖ノ島はともに数十キロメートル離れている。陸路においてはかなり遠く感じるが、海上から眺めてみると意外と近くに感じる。この海域こそが、近世に室戸方面の藩鯨組が盛んに行った「捕鯨海域」であり、紀州印南浦海民により開拓された「カツオ漁海域」であり、室戸方面の上浦海民と地元海民が採取を巡り争った「サンゴ漁海域」であった。



足摺岬沖合海上



足摺半島北東部から見た興津岬

【編集後記】

5月14日は「母の日」である。私事、母がなくなり3年が過ぎた。亡くなってから3回目の「母の日」を迎える。今年の「母の日」は、土佐史談会総会があり、墓参りができない。前日に墓参りを済ませようと考えている。母は亡くなる前に「(『新市史』が刊行するまで生きたいと)心に決めている」と病床で何回も繰り返し言っていた。母はついに刊行まで生きることはできなかったが、墓前に胸を張って「素晴らしい『新土佐清水市史』ができた」と報告できるよう最後まで力いっぱい取り組んでいきたい。(田村)